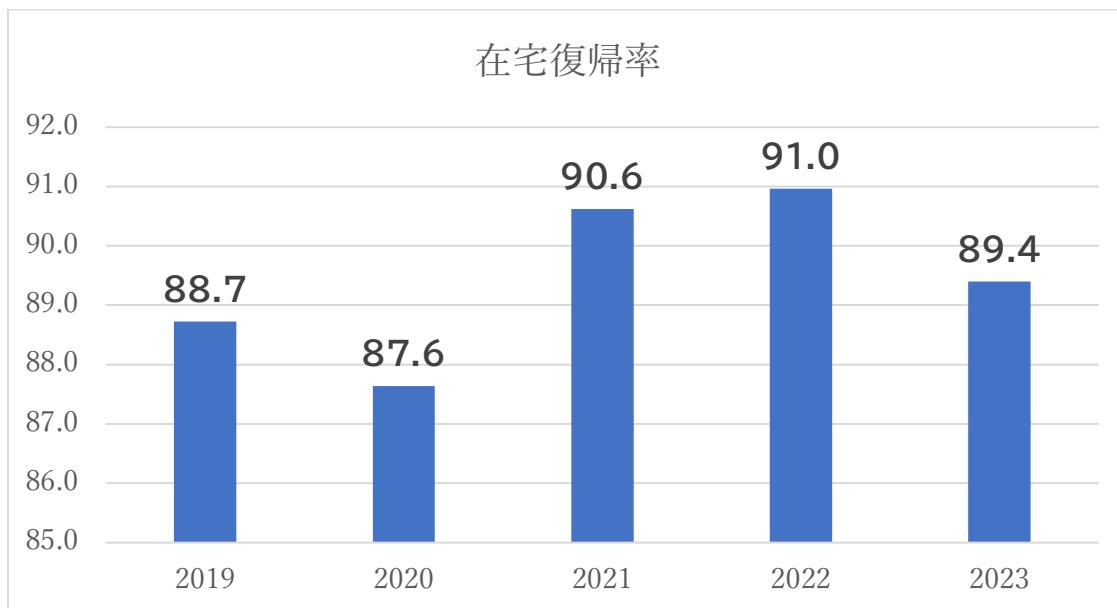


回復期病棟

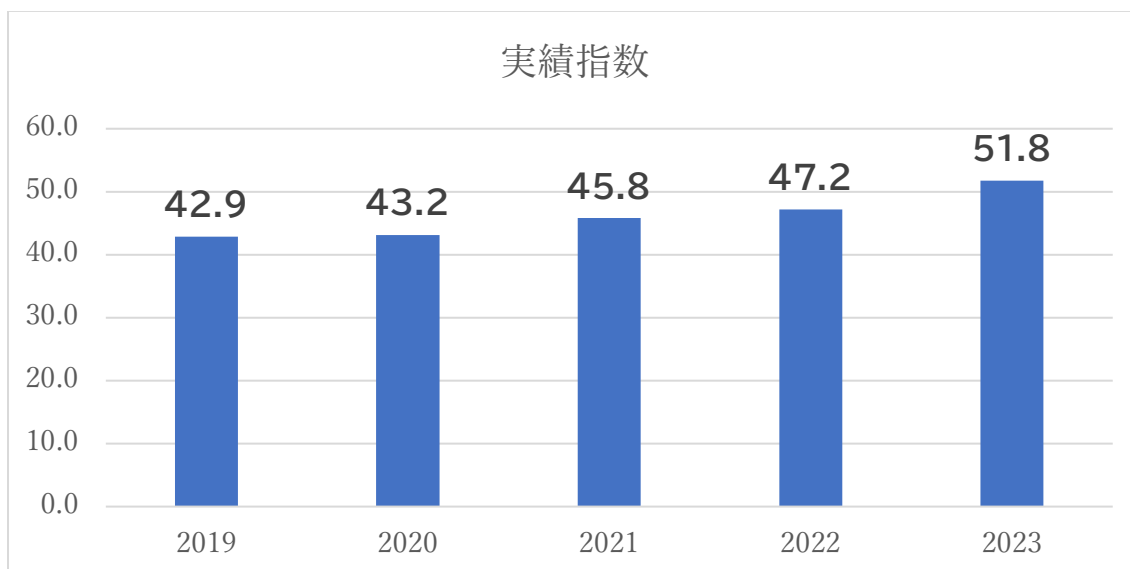
1. 在宅復帰率※¹



・当院の回復期病棟における在宅復帰率は、2023 年度で 89.4%となっています。

※¹：在宅復帰率とは、病院から自宅、またはそれに準ずる施設に退院した患者様の割合です。入院された患者様の約9割が、自宅もしくは自宅に準ずる施設（特別養護老人ホーム、介護付き有料老人ホームなど）に退院されています。

2. 実績指数※²



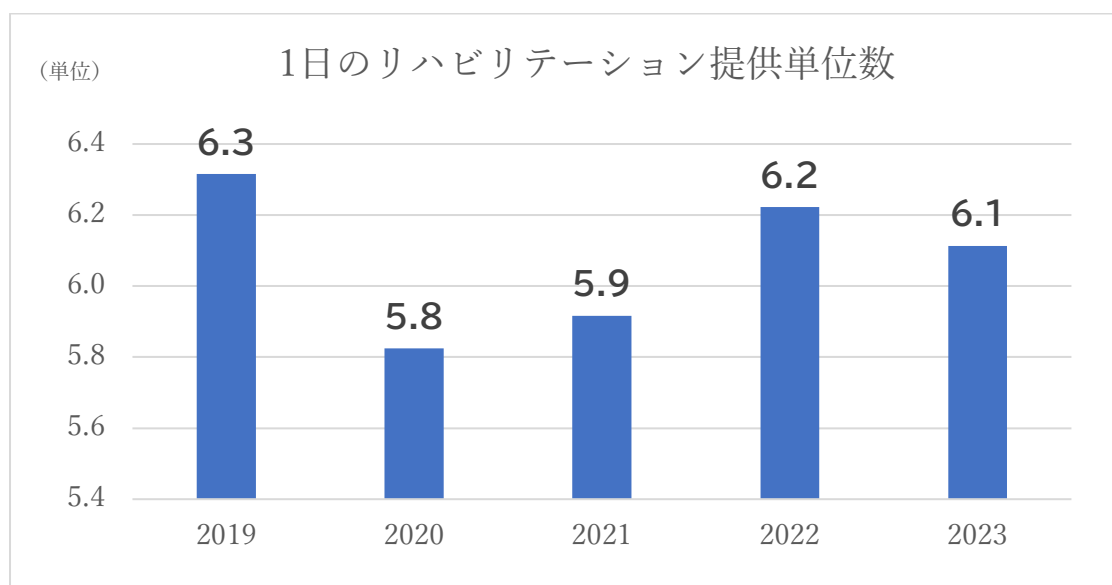
・当院の回復期病棟における実績指数は 2022 年度で 51.8 となっており、適切な入院期間で最大限のリハビリテーション効果を提供できるよう努めております。

※2：実績指数とは、リハビリテーションを提供したことによる改善度を表す指標です。リハビリテーションの効果と言い換える事もできます。

回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定するための基準として実績指数が40以上となっております。

当院では2023年の平均値が51.3と高く保てております。この背景には一人一人の患者様に対して、スタッフが一丸となり、心身機能の向上をはじめ、退院までのサポートが充実している事が要因と考えております。

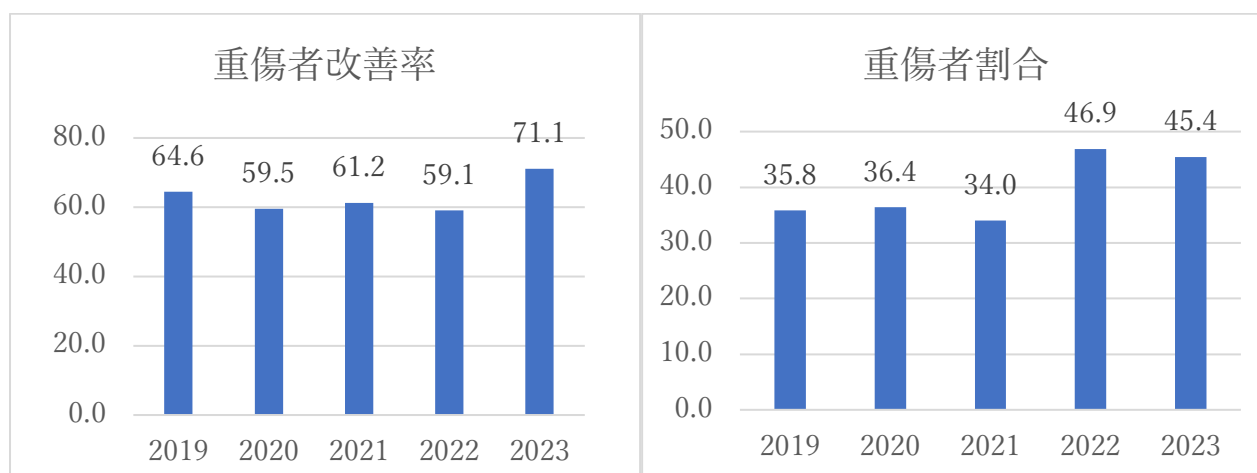
3. 1日あたりのリハビリテーション提供単位数※3



・当院の回復期病棟におけるリハビリテーション提供単位数は、2023 年度 1 日平均 6.1 単位（1 単位＝20 分）の個別リハビリテーションを提供しています。2023 年度の内訳から脳血管疾患への 1 日あたりの提供単位数が最も多くなっております。

※3：単位とはリハビリを行う時間であり、20 分が 1 単位です。2023 年度は 1 日平均 6.1 単位であるため、1 日 1 人あたり約 2 時間のリハビリを提供していることになります。

4. 重症者割合※4 及び重症者改善率※5

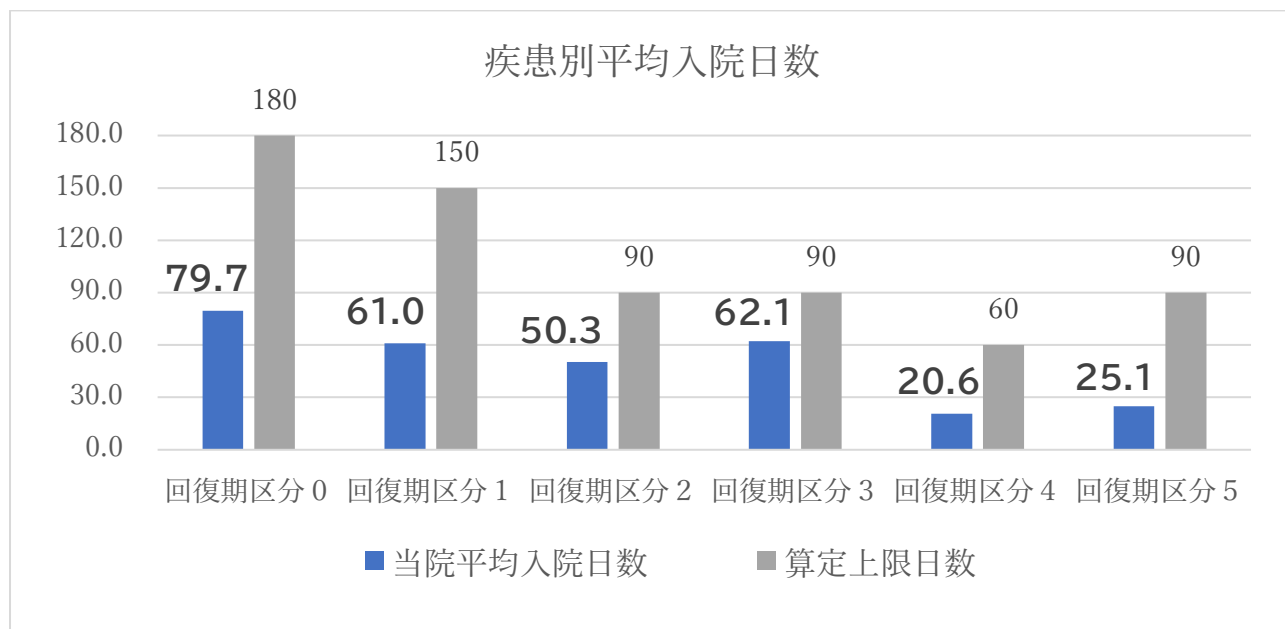


・当院の回復期病棟における重症者割合は、2023 年度 45.4%となっており、積極的に重症患者様を受け入れております。リハビリテーションによる重症者改善率は、毎年 50%以上を保持しています。

※4：重症者割合とは、食事・更衣・入浴等日常生活に必要な動作が困難な患者様の割合です。

※5：重症者改善率とは、入院時と退院時を比較し日常生活動作がどれだけ改善したのかを示す指標です。

5. 回復期区分※⁶別の平均入院日数



・当院の回復期区分別の平均入院日数は
 回復期区分 0 : 79.7 日、回復期区分 1 : 61.0 日、回復期区分 2 : 50.3 日、回復期区分 3 : 62.1 日、
 回復期区分 4 : 20.6 日、回復期区分 5 : 25.1 日となっております。

※ 6 : 回復期区分とは、回復期病棟へ入棟できる疾患を 6 つの区分に分けたものです。

区分 0 : 高次脳機能障害を伴う脳血管疾患や、重度の脊髄損傷等などの中枢疾患

区分 1 : 脳血管疾患や、重度の脊髄損傷等などの中枢疾患

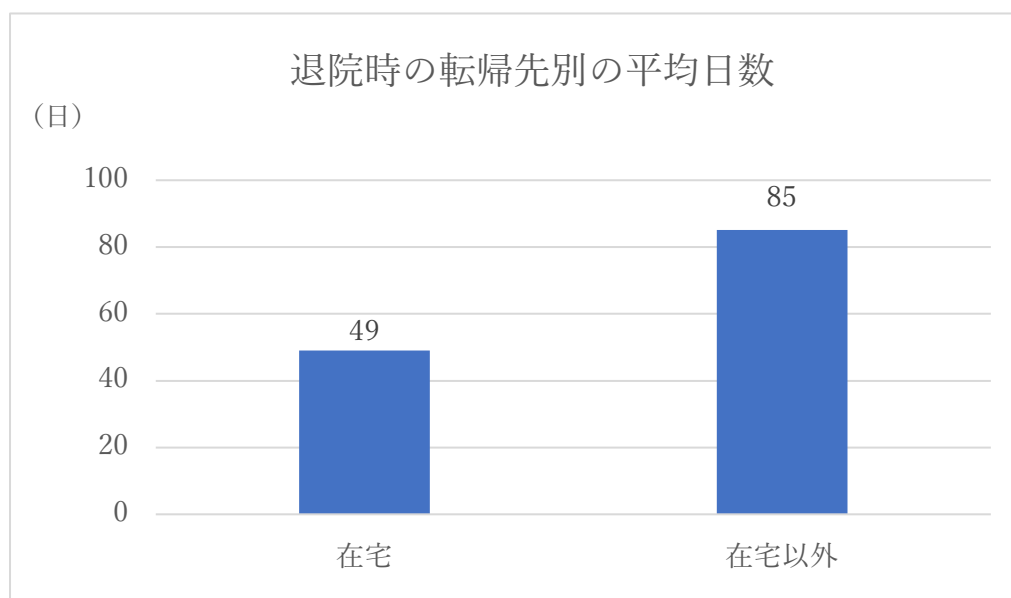
区分 2 : 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折または多発骨折後

区分 3 : 廃用症候群

区分 4 : 神経、筋または靱帯損傷後

区分 5 : 股関節または膝関節の置換手術後

6. 退院時の転帰先※⁷別の平均入院日数

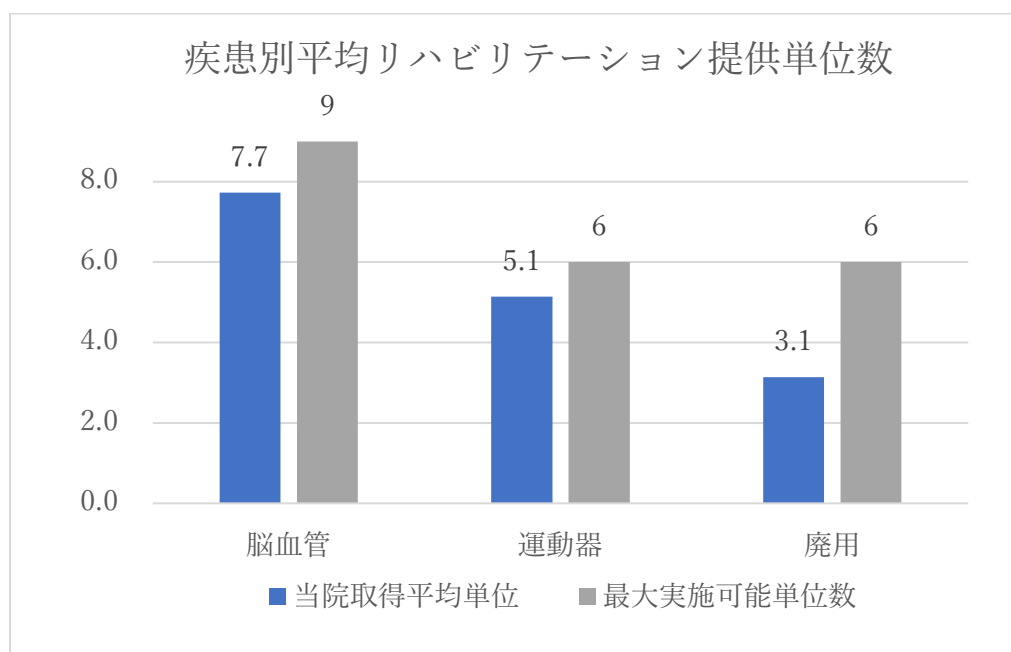


・当院の 2023 年度の退院時の転帰先別の平均入院日数は、在宅の方が、在宅以外よりも入院日数が少ない傾向にあります。

※⁷：「転帰」とは、ある時点での結果のことを指します。退院時の転帰先とは、退院時の結果、つまり退院先のことを示しています。

当院では、様々な手段を用いてアプローチを行い、患者様の自立を支えることを最上の課題としています。患者様の心身機能や生活能力が目標としていたゴールに達したのであれば、退院は早ければ早いほうが良い、入院期間は短ければ短いほうが良いことに相違はありません。しかし、より高いゴールが得られる、もしくはゴールを修正する必要があると主治医が判断した場合は、患者様やご家族様とご相談しながら、入院期間を入院限度期間の範囲内で再設定することで適切な退院支援を行ってまいります。

7. 疾患別平均リハビリテーション提供単位数

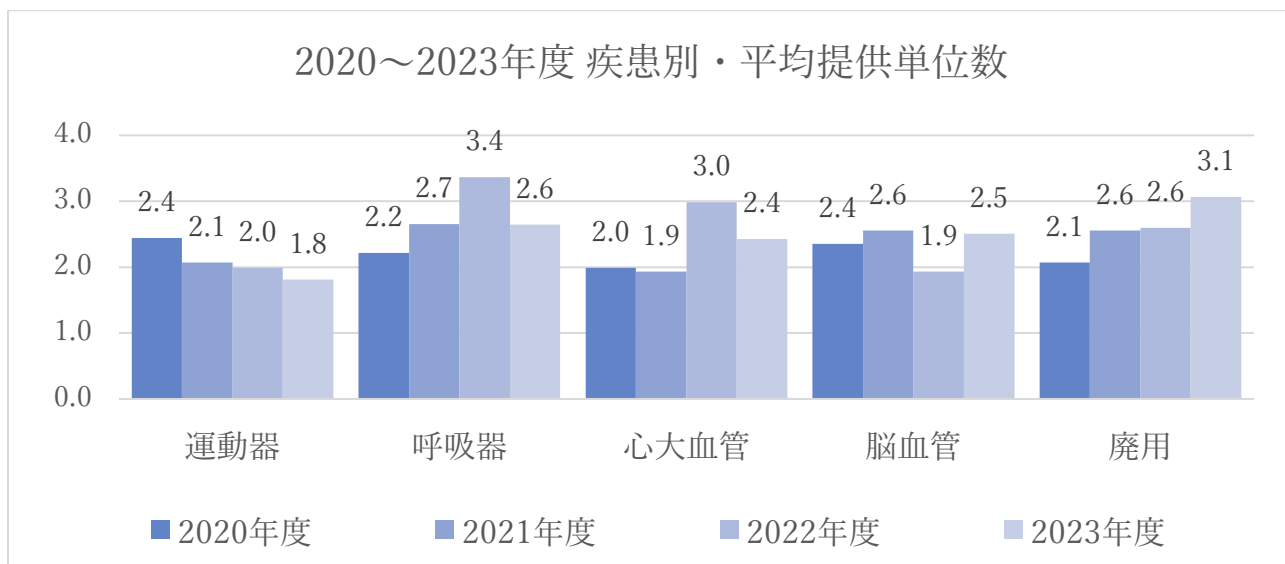


・当院の 2023 年度の疾患別平均提供単位数から、脳血管疾患に対する提供単位数が 7.7 と最も多くなっております。

当院では日本リハビリテーション医学会認定専門医を含むリハビリテーション科医師をはじめ、多くの理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が在籍しております。リハビリテーションを必要とする患者様に、各専門職がチームを組んで患者様の回復を支えていきます。

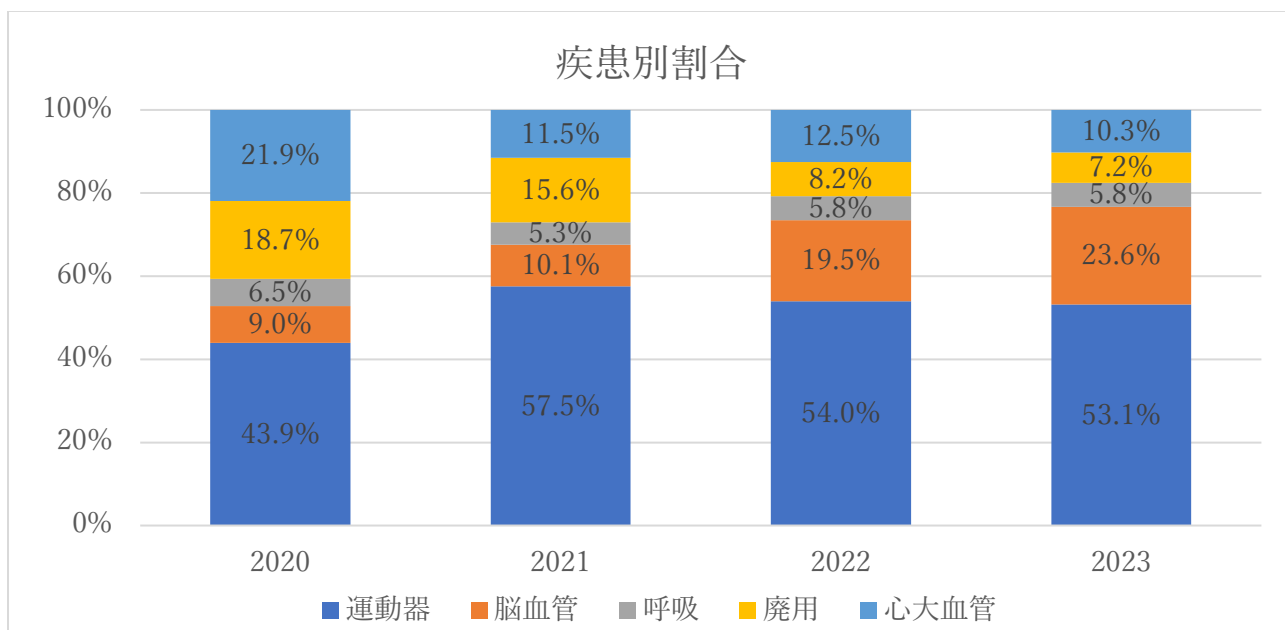
一般病棟

1. 1日あたりのリハビリテーション提供単位数



・当院の一般病棟におけるリハビリテーション提供単位数は、2020 年度 1 日平均 2.2 単位、2021 年度 1 日平均 2.4 単位、2022 年度 1 日平均 2.6 単位、2023 年度 1 日平均 2.5 単位、（1 単位＝20 分）の個別リハビリテーションを提供しています。

2. 入院患者様の疾患内訳



・当院の一般病棟における入院患者様の内訳は、運動器疾患が約半数を占めており、残りの半数が内科系疾患の患者様となっております。あらゆる疾患の患者様に対応できるスタッフの育成に日々努めております。

3. 入院患者様の病名と平均入院日数（上位 5 位まで）

2023 年度	病名	平均入院日数
1 位	肩関節術後	20
2 位	脊椎・胸腰椎疾患	42
3 位	パーキンソン病	27
4 位	股関節術後	24
5 位	廃用症候群	47

2022 年度	病名	平均入院日数
1 位	肩関節術後	21
2 位	脊椎・胸腰椎疾患	38
3 位	慢性心不全	36
3 位	廃用症候群	65
5 位	股関節術後	30
5 位	パーキンソン病	23

2021 年度	病名	平均入院日数
1 位	肩関節術後	22
2 位	廃用症候群	55
3 位	脊椎・胸腰椎疾患	40
4 位	膝下疾患（下腿や足部）	36
5 位	股関節術後	29

2020 年度	病名	平均入院日数
1 位	廃用症候群	50
2 位	肩関節術後	25
3 位	慢性心不全	40
4 位	脊椎・胸腰椎疾患	47
5 位	急性心筋梗塞	28

・当院の一般病棟における入院患者様で最も多い病名は、2020 年度は廃用症候群、2021 年度は肩関節術後、2022 年度は肩関節術後、2023 年度は肩関節術後となっております。そのほかに、心疾患や脊椎疾患、パーキンソン病などの患者様も多く受け入れております。